



お坊さんに

なりました

2

お坊さんの学校



前田 純代
ままだ すみよ

1973年生まれ。東京大学文学部卒。野村総合研究所勤務。フランスHEC経営大学院MBA修了。中央仏教学院卒。広島市・善法寺坊守。

東京の会社を入社8年目に
して寿退社した私は、その足
で京都の専門学校に入学する
ことになっていました。

実家は真宗ではなく禅宗で、
しかも祖父の代からサラリー
マンという家庭で育った私は、
南無阿弥陀仏と称えたことも
ありません。そんな私を心配
した主人とその家族が、京都
にある仏教の専門学校で1年
間学ぶことを勧めてくれたの

でした。私は私で、広島に嫁
ぐ前に、風情ある京都の街で、
独身生活をもう1年謳歌でき
るという提案がすっかり気に
入り、二つ返事で承諾したの
でした。

こうして私は、東京から広
島行きの新幹線を途中下車し、
京都の山ノ内にある中央仏教
学院で学び始めました。中央
仏教学院は、浄土真宗の僧侶
を養成する専門学校です。こ
こでは、声明・作法・布教法
から、浄土真宗を中心とした
仏教全般の教義・歴史まで広

く学ぶことができます。当時
30歳を過ぎていた私は、すで
に小学校からビジネススクー
ルまでさまざまな学校を卒業
していました。けれども、お
坊さんの卵を育てるこの小さ
な学校こそ、私の生き方を大
きく変え、育ててくれた愛す
べき学校となるのです。

学校生活は、入学式当日か
ら、驚きの連続でした。朝、
登校すると生徒は講堂に勢揃
いして勤行が始まります。

「合掌！」

「なまんだうぶ なまんだ

うぶ…」

「礼拝」

ふーん、ここまででは余裕だ
な…。そして次の瞬間、私は
カルチャーショックを受ける
ことになるのです。重誓偈だ
ったのか、讚仏偈だったのか、
一斉に老若男女、大音量でと
なえ始めたのです。ジャージ
のお兄ちゃんも、立て巻き口
ールのお姉ちゃんも、白髪ま
じりのおじいちゃんも、みん
な声をそろえて大合唱なので
す。

「えっ？…なんで習っていな
いのになえられるの？」

思えば、生徒のほとんどは

浄土真宗のお寺の子弟なので
す。小さい頃からご飯を食べ
るようにお経をあげてきた彼
らがとなえられるのは当然な
のです。けれども、十代、
二十代の若者がほとんどの中、
かなり年配の私が入学式から
「自分だけが全くできない」
という状況に驚いたわけです。
後で聞くと、できなかったの
は私だけでなく、結婚と同時
に入寺する人のほとんどは、
私と同様「初めて」のことは
かりだったようです。

入学式で院長先生が話され

「普通の学校は、入学した
時より賢くなって卒業します。
この学校は、愚かになる学校
です。みなさん、愚かになっ
て卒業されるのですよ」

この言葉は、卒業して10年
経った今でも日々新たな気づ
きを私にもたらしてくれます。
入学式の私は全くその深い
意味を理解することもなく、
ただ「卒業するまでもなく愚
かな…」と、自分のあまり
の初心者ぶりに内心苦笑する
ばかりでした。

